

## 第24回委員会会議結果概要(案)

開催概要	
日時	平成21年3月5日(木) 17時30分～19時30分
場所	船橋市商工会議所 6階 ホール
参加者数	45名
出席委員	15名(遠藤茂勝、工藤盛徳、倉阪秀史、榊山勉、及川七之助、 上野菊良、竹川未喜男、歌代素克、後藤隆、佐々木洋晃、 松崎利光、田草川信慈、下原慶啓、増岡洋一、鯉淵彰) :委員長
結果要旨	
<p><b>議題</b></p> <p><b>第23回委員会の開催結果概要</b></p> <p>[主な意見及び対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・砂つけ試験が合意されたという表現をしていいのか疑問である。</li> <li>・合意されたものと認識している。護岸検討委員会で合意し、三番瀬再生会議へあげたものである。</li> </ul> <p><b>三番瀬評価委員会からの意見及び対応について</b></p> <p>[主な意見及び対応]</p> <p>【生物調査関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生物群集に大きなダメージを与えるような状況」の“大きなダメージ”とはどこで誰が判断するのか。</li> </ul> <p>事務局回答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・護岸前面に青潮が広がり、そこにいる生物群集に大きなダメージを与えた場合に、事務局で生物の専門家の判断を仰ぐこととする。</li> <li>・冬季生物調査の実施は、夏季調査の結果をみて判断できる。</li> <li>・ハマグリ稚貝を入れているが、去年の夏、青潮により被害を受けた。</li> <li>・鋼矢板部分のマガキが少なくなっているため、この部分の記録を残してほしい。</li> <li>・平成20年度は、同時期に放水路の出水があった。青潮と出水のどちらのイベントが影響を与えるのか実証していない。出水した時も調査してほしい。</li> <li>・対応方針を変えて、原因によらず“生物群集が大きなダメージを受けた時に調査する”こととする。</li> </ul> <p>【波浪・流況調査関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境調査で広域の海底地形の変化を調査していると思うので、情報提供を受けてほしい。</li> </ul>	

### **護岸バリエーションの検討について**

- ・アイデアは出尽くしてきている。今後は県が様々な案を出さないと次のステップに進まないのではないか。
- ・まちづくりは簡単にいかないのも事実である。まちづくりとは別に、地元の方たちが遊歩道整備に期待しているので、対応をしてほしい。
- ・ゾーニングをある程度押さえながら、一部絵を描かないと話が進まない。
- ・次回、各委員からいろいろな意見を出してもらい、それをもとに県で案をつくってもらう。
- ・自然再生が進めば1期地区も進められるが、なかなか進まない。
- ・ゾーニングはX軸方向ではなく、Y軸方向にも考えたらどうか。陸から海へ順番に考えればよいのではないか。(X軸：沿岸方向、Y軸：岸沖方向)
- ・ゾーニングの言葉の定義をしてほしい。
- ・次回委員会で、平成22年度完了の場合の護岸整備スケジュールについて教えてほしい。

### **傍聴者からの意見**

- ・海岸保全区域のラインはどうなるのか。変更してほしくない。